

## 父親・男性研究 I ー父親用文章完成法 (F・SCT) の作成 ー

愛育相談所	川井 尚・庄司順一・安藤朗子・千賀悠子・武島春乃 山内浩子・永井桃子・堤 道子
研究企画・情報部	中村 敬・谷口和加子
研修部	長坂典子
愛育幼稚園	岸井慶子
嘱託研究員	渡邊 寛 (評論家)・大藪 泰 (早稲田大学)・馬岡清人 (日本女子大学) 鈴木真弓 (東邦大学附属大橋病院小児科)・栗原佳代子 (神奈川工科大学) 平岡雪雄 (浦安市教育委員会いちょう学級)・島 智久 (浦安市子ども療育センター) 伊藤嘉余子 (日本社会事業大学大学院)・山岡 テイ (情報教育研究所) 木邨真実 (大阪府衛生会附属診療所)・恒次欽也 (愛知教育大学)

【要約】父親が育児を母親と共にいるとき、その果たす基本的役割とは何かを研究目的とし、筆者らの従来の研究知見とその反省から、父親 (父親・夫)・母親 (母親・女性)・(子ども) の3者関係を明らかにする必要があると考え、改めて父親・男性研究をテーマに研究をすすめることとした。

その研究方法として、あらかじめ回答を用意したアンケート方式ではなく、父親の生きた声を聞き取る臨床心理検査の1技法である文章完成法方式を用いることにした。文章完成法とは、「書きかけの文章」をつくり、それにつけて文章を完成するものをいう。この研究法の最も重要な課題は、いかに適切な「書きかけの文章」を作るかにかかっている。そのため、多くのメンバーから構成される研究チームをつくり、この研究目的に添う「書きかけの文章」1449項目が集められた。この項目をメンバー間で必要、且つ重要な項目を絞り込む作業を繰り返し行い、最終的に32項目からなる「父親用文章完成法 F・SCT」を作成した。この作成したF・SCTが研究目的である、基本的な父親の役割を明確にしうるかをみるためのパイロットスタディを行った。その結果、この研究法により研究をすすめることが可能と考えられ、この研究法により本研究を行うこととした。なお、上述の3者関係をより明らかにするために、F・SCTと同じ項目を用い、M・SCTを作成した。今後、このふたつのSCTを夫婦ペアにして施行することを含め、本父親・男性研究をすすめることを確認した。

見出し語：父親研究、父親の役割、父子関係、父親用文章完成法

### A Study on Paternal and masculine gender role - Making the Sentence Completion Test for Father(F・SCT)-

Hisashi KAWAI, Junichi SHOJI, Akiko ANDO, Yuko CHIGA, Haruno TAKESHIMA, Hiroko YAMAUCHI, Momoko NAGAI, Michiko TUTUMI, Takashi NAKAMURA, Wakako TANIGUCHI, Noriko NAGASAKA, Keiko KISHII, Hiroshi WATANABE, Yasushi OYABU, Kiyoto UMAOKA, Mayumi SUZUKI, Kayoko KURIHARA, Yukio HIRAOKA, Tomohisa SHIMA, Kayoko ITO, Tei YAMAOKA, Mami KIMURA, Kinya TUNETUGU

Abstract: The purpose of the study was to find out the basic paternal roles of child rearing. For this purpose it was needed to make clear the relationships among the three, father (husband), mother (wife) and child. Then we decided to make the original Sentence Completion Test for Father (F・SCT). The SCT is one of the clinical tests to study the person's mind by the sentence which he completed, following after a provided uncompleted one. The most important point in the SCT was that how adequate uncompleted sentences were provided.

Then firstly, many members of this study gathered the 1449 uncompleted sentences, and after the careful consideration we selected the 32 important sentences. Secondary, we proceeded to the pilot study which confirm whether F・SCT would be effective to find out the basic paternal roles of child rearing. As the result of this study, we concluded that F・SCT was effective to find out the basic paternal roles. Further we made the SCT for Mother to examine the relationships among the three, father, mother, and child.

Key word: study of father, paternal role, relationship between father and child, F・SCT

## I. 研究目的

最近、父親の育児の参加を促す動きが活発になり、新しい母子健康手帳にも取り入れられている。平成12年度幼児健康度調査においても、父親の育児参加率が示され、その実態が知られている。かつて、筆者らは厚生省「心身障害研究」平山宗宏班、及び日暮 眞班において「育児における父親の役割についての研究」を6年間にわたって行った。主としてアンケート方式による調査研究であり、いくつかの知見を得たが、基本的な父親の役割を見いだすまでにいたらなかった。その大きな理由として、母子関係は生物学的基盤に基づくことに由来し、その役割は「安全性」にあることが知られているが、心理・社会的関係を出発点とする父子関係とその役割を見いだすこと自体の難しさがあげられる。即ち、情緒的なものを含む心理・社会的な関係そのものを研究視点に入れる必要が求められている。この点に関しては、筆者らの先行研究で指摘したところでもあり、それは、父親(夫、男性)・母親(妻、女性)・子どもの3者関係そのものを研究対象としなくてはならず、今後の課題とした。

そこで、本研究ではこれらの関係性の視点に立ち、研究を進めることにした。まず、研究方法を検討し、あらかじめ調査項目を決めて行うアンケート方式の限界を既に承知しているので、できうる限り父親の生きた声を聞き取り、検討するために「文章完成法」方式をとることにした。この方式は、臨床心理検査技法のひとつであり、個人の心理的状況をよく反映するものとして知られている。

なお、父親のみではなく、男性をも対象とした理由は、上述の関係性のところでふれたとおりである。

本報告では、父親用文章完成法(F・SCT)の作成を中心にし、また、パイロットスタディを行い、そのF・SCTの反応から本研究方法の妥当性を検討することとした。

## II. 研究方法と結果

### 1. 父親用文章完成法(F・SCT)の作成過程

本研究目的を果たすために、次の領域を想定し、SCT項目を作成、選定した。

その領域は、I. 育児を含む父子関係 II. 家族・夫婦関係 III. 父親自身(男性) IV. 父親自身の親子関係 V. 社会の領域である。

その項目作成と選定作業は、以下のように進められた。チーム研究としたとしても、23名という多くのメ

ンバーで研究を進めた最大の意図は、上述の多領域にわたる「書きかけの文章」を、小児に関わる専門家という共通する基盤のうえで、多領域の多様多彩な仕事上の経験、知識にもとづいて作り出すためである。子育てネットワークに関与しているメンバーは、子育てサークルの父親・母親にも作成を依頼している。

その結果、第一段階では1449項目の「書きかけの文章」が作成された。これを各チームメンバーが読み込み、各領域毎に重要にして必要と考えられる項目を選定し、この作業を繰り返し行い、最終的には約60項目に絞り込まれた。

記述することが求められるSCT法は、項目そのものは勿論、項目数によって得られる情報精度とデータ獲得数が左右される。そこで、各領域のどの項目を、いくつ選定するかが最後の重要課題となった。主任研究者を中心に、かつて、妊娠期から幼児期までの母子関係研究にSCT法を作成し研究したメンバーにより、調査用紙は見開き2ページとし、30項目を目安に最終選定を行った。

その結果、研究目的の主たるものである「育児を含む父子関係」の領域にできる限り多くの項目を入れることとし、12項目を選定した。次いで「家族・夫婦関係」に7項目、本研究の鍵となる「父親自身・男性」の領域に9項目、「父親自身の親子関係」、「社会」の領域にそれぞれ2項目とし、計32項目から成る「父親用文章完成法」(以下、F・SCTとする)を作成した。

以下に示すものが、作成された「F・SCT」である。

NO.

## F・SCT〔父親用〕

記入年月日 平成 年 月 日

### <アンケートのお願い>

お父さん、お母さんの子育てを支援するために、どのようなことを行っていけばよいかを知るためのものです。どうか、ご協力ください。

### 記入のしかた

次のページには書きかけのことばが32あります。  
それを見て、頭に浮かんできたことを、そのことばにつづけて書き、文章を作って下さい。

〔例〕  
花 を見ていると気持ちがなごみます。いっか自分で  
いろいろ手花を育てたら いっかあ と思います。

このように、あなたの感じ思いついたことを、自由に書いて下さい。思いつくまま1から順にやして下さい。もし、すぐ書けないものがあつたら、その番号に○をつけて後回しにし、先へ進み、後で書いて下さい。

あなたの生年月日	西暦	年	月	日生 (満 歳 月)
妻の生年月日	西暦	年	月	日生 (満 歳 月)
お子さんの生年月日	西暦	年	月	日生 男・女 (満 歳 月)
お子さんの生年月日	西暦	年	月	日生 男・女 (満 歳 月)
お子さんの生年月日	西暦	年	月	日生 男・女 (満 歳 月)

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 子どもの頃私は_____     | 17. 私の居場所は_____         |
| _____               | _____                   |
| 2. 子育ては_____        | 18. 子どもにとって私は_____      |
| _____               | _____                   |
| 3. 将来、私は_____       | 19. 思いどおりにいかないと_____    |
| _____               | _____                   |
| 4. 妻と私は_____        | 20. 家にいると_____          |
| _____               | _____                   |
| 5. しつけ_____         | 21. 妻が病気になると_____       |
| _____               | _____                   |
| 6. 子どもと私は_____      | 22. 子どもは私を_____         |
| _____               | _____                   |
| 7. 友人_____          | 23. もしも子どもが_____        |
| _____               | _____                   |
| 8. 母と私は_____        | 24. 父と私は_____           |
| _____               | _____                   |
| 9. 私が感情的になるのは_____  | 25. 困り果てたとき私は_____      |
| _____               | _____                   |
| 10. 私はひとりしていると_____ | 26. 子どもがいうことをきかないと_____ |
| _____               | _____                   |
| 11. 私にとって子どもは_____  | 27. 死ぬときは_____          |
| _____               | _____                   |
| 12. 子どもが生まれてから_____ | 28. 暴力_____             |
| _____               | _____                   |
| 13. 仕事_____         | 29. 子どもの気持ち_____        |
| _____               | _____                   |
| 14. 子どもといると私は_____  | 30. 性生活_____            |
| _____               | _____                   |
| 15. 妻と子どもは_____     | 31. 私にとって家族は_____       |
| _____               | _____                   |
| 16. 私は男として_____     | 32. 妻とふたりでいると_____      |
| _____               | _____                   |

なお、SCT法を用いた母子関係研究のとき、父親用も作成、実施したが、父親の文章表現は比較的乏しく、このことを勘案し、筆者らの先行研究で得られた知見

にもとづき、アンケート項目を加えた。次に示すものが、その質問項目である。

---

1) 父親(夫)の役割についてどのように考えますか。(ひとつだけ○)

1. 父親としても、夫としても両方の役割がともに大事である。
2. 父親としての役割の方が大事である。
3. 夫としての役割の方が大事である。
4. 家庭よりも仕事などの社会的役割が大事である。
5. その他

2) 子どもとの関わりかたや子育てについてどのように考えますか。(ひとつだけ○)

1. 夫婦は一体となって子どもと接するのがよい。
2. 夫婦はそれぞれの持ち場で子どもと接するのがよい。
3. 母親(妻)がおもに子どもと接するのがよい。
4. 父親がおもに子どもと接するのがよい。
5. その他

3) あなたの両親との関わりについてはいかがでしたか。(ひとつだけ○)

1. 両親はともによく遊んで(関わって)くれた。
2. 母親はよく遊んで(関わって)くれたが、父親はそうでもなかった。
3. 父親はよく遊んで(関わって)くれたが、母親はそうでもなかった。
4. 両親ともにあまり遊んで(関わって)くれなかった。
5. その他

4) あなたの両親の親としてのあり方を見てどう思いますか。(ひとつだけ○)

1. 両親ともに良いお手本だと思う。
2. 父親は良いお手本だが、母親はそうでもない。
3. 母親は良いお手本だが、父親はそうでもない。
4. 両親を手本とするよりも、自分たちなりにやっていきたい。
5. その他

5) あなたがもっとも大事にしたいのはどれですか。(ひとつだけ○)

1. 父親としての生き方
2. 夫としての生き方
3. 人間としての生き方
4. 私個人としての生き方
5. 男性としての生き方
6. とくにない(こだわらない)
7. その他

6) 夫として、父親としていかがですか。

1. 夫としても、父親としても苦悩することが多い。
2. 夫として苦悩することが多い。
3. 父親として苦悩することが多い。
4. 夫としても、父親としても苦悩することはない。

7) 夫・父親として次の中からおもにあてはまるものを2つ以内選んで○をつけてください。

1. 母親の役割を一部担い、育児や家事の援助、役割の肩代わりをする。
2. 仕事を通して経済的な保証をする。
3. いざというときだけ指導的役割を果たし、決断を下す。
4. 日常生活全般にわたって主導的役割を担う。
5. 妻の相談相手になったり、精神的な支えとなる。
6. 子どもが社会的に自立できるように手助けをする。
7. 客観的な立場から母親の子育て、母子の関係を援助する。
8. 格別のことはしないで、自分は自分でやっていく。
9. 父親とか、夫というような固有の役割はない。
10. その他

8) 男性、父親、夫あるいは家庭、夫婦、父子関係などということに関してあなたのお考えがあればお書きください。

**あなたの職業**

1. 専門的・技術的職業
2. 管理的職業
3. 事務
4. 販売
5. サービス
6. 保安
7. 農林漁業
8. 運輸・通信
9. 生産工程・労務
10. 自営業
11. 無職
12. その他 ( )

働いている方のみお答えください。

労働時間 週平均 時間

勤務形態 1. おもに日勤 2. おもに夜勤 3. おもに交替勤務  
4. その他

あなたはきょうだいの 人中 番目  
結婚年数は 初婚 年 (再婚) 年  
居住地域 都道 市区  
府県 町村

ご両親は 1. 健在 2. 死亡(父・母) 3. 離婚

ボランティアなど地域活動 1. している 2. していない

配偶者の職業(就業形態問わず) 1. 有 2. 無

お子さん(たち)の入院経験 1. 有 2. 無

未熟児出生 1. 有 2. 無

発達がゆっくりなど障害 1. 有 2. 無

## 2. 母親用文章完成法(M・SCT)の作成

育児における親の役割は、父親、母親それぞれ独自のものと、共通したものがあることには違いがないことと考える。父親が育児にあたる時、単なる母親の代行に過ぎないとすれば、父親研究自体に意味がない。すなわち、父親、母親の独自の役割と共通したのを見いだし、それぞれがどのような形を成し機能すると育児という大仕事を成し遂げていけるのかを明らかにすることは重要なことと考える。

そこで、この目的を果たすためにF・SCTの項目をそのまま用い、たとえば、「妻と子どもは\_\_\_」を「夫と子どもは\_\_\_」に、「妻と私\_\_\_」を「夫と私\_\_\_」になど変えたM・SCTを作成した。今後、この夫婦のSCTを丹念に比較検討することにより、どのような形が適度にして適切な育児の共同作業となるのか、その手がかりを得ることができると考える。

## 3. F・SCTの反応性－パイロットスタディー

以上の作成過程を経たF・SCTの各項目が、本研究目的を果たすような反応を引き出すものかについてのパイロットスタディーを行った。

調査対象は東京都内のある幼稚園の父母170組であり、回収は88組であったが、このうち父親の無回答を除くと53名、有効回収率は31%であった。なお、

母親の有効回答は73名、回収率43%である。

父親の年齢は、30代37名、40代14名、50代2名である。子どもの年齢は、4歳児19(男児9, 女児10)名、5歳児21(男児10, 女児10)名、6歳児13(男児4, 女児9)名であった。

回収率が低い理由として、第1に記述法であり、文章を書くことへの抵抗と、第2に、私的領域に関わるものであることから書きにくく、そのための拒否もあげられよう。ただし、高い回収率とはいえないが、母親の43%に比べて10ポイントの差がみられ、父親を対象とする調査研究のむずかしさも考えられる。しかし、いずれにしても、この点に関して、調査法としての限界があることを充分把握して研究を進めなくてはならない。

この限界を念頭に置きながら、反応をみていくこととした。ところで、SCT法は、臨床心理検査法であるため、その個人特有の反応も当然見られる。それらを除き主な反応を読みとり、整理したものを表1に、また、主な反応の評定を表2に示した。

表1 F・SCTの主な反応(I～V) 反応分類評定

なお、主な反応として以下のように5つ(A～E)のカテゴリーが抽出され、さらにD以外は、内容によってポジティブ(+), 両価的(±), ネガティブ(-)の評定がなされた。

A	情緒性	A+, A±, A-
B1	情緒的な関係	B1+, B1±, B1-
B2	叙事的な関係	B2+, B2±, B2-
B3	相互的な関係	B3+, B3±, B3-
C	叙述、考え方	C+, C±, C-
D	困惑、当惑	D
E	その他	E+, E±, E-

## I 育児を含む父子関係の領域

2. 子育ては_____	<input type="radio"/> 大変だが楽しい <input type="radio"/> 大事・重要・責任 <input type="radio"/> 夫婦協力・共同作業 <input type="radio"/> 楽しみだが心配 <input type="radio"/> 難しい <input type="radio"/> 参加なし・妻任せ	A± C± B2+ A± A± B2-
--------------	--	------------------------------------

5. しつけ_____	<input type="radio"/> 教える・身につけさせる <input type="radio"/> 重要・大切 <input type="radio"/> しっかり・厳しく <input type="radio"/> 厳しさと、愛情で <input type="radio"/> 親の責任・お手本 <input type="radio"/> 難しい	C+ C+ C+ C+ C+ A±
6. 子どもと私は_____	<input type="radio"/> 仲がよい (よくなりたい) <input type="radio"/> 幸せ・楽しい <input type="radio"/> コミュニケーションをとり、理解 <input type="radio"/> 信頼関係 <input type="radio"/> 友だちのよう <input type="radio"/> よく遊ぶ	B1+ A+ B3+ B3+ B2+ B3+
11. 私にとって子どもは_____	<input type="radio"/> 宝物 <input type="radio"/> 大切 <input type="radio"/> かけがえのない存在・守る <input type="radio"/> 生き甲斐	C+ C+ C+ C+
12. 子どもが生まれてから_____	<input type="radio"/> 子ども中心の生活にーうれしい、仕方ない、生活パターンの変化 <input type="radio"/> 充実した <input type="radio"/> 価値観・人生観の変化 <input type="radio"/> 妻との会話がふえた・よい関係に <input type="radio"/> 子どもと共に成長	B2± A+ C+ B2+ B2+
14. 子どもといると私は_____	<input type="radio"/> 安らぐ・和む・ほっとする・暖かい・心豊か・やさしい・ゆっくり・ 幸せ・楽しい <input type="radio"/> 遊び・話したい <input type="radio"/> 自分の子どもの頃を思い出す <input type="radio"/> イライラ・おこりっぽい	A+ B3+ C+ A-
18. 子どもにとって私は_____	<input type="radio"/> 大切な存在 (存在でありたい、守りたい、支えたい) <input type="radio"/> 必要な人でありたい <input type="radio"/> 必要不可欠な宝物・頼りになる人・尊敬に値する人・かけがえのない人・ヘッドコーチ <input type="radio"/> お手本 <input type="radio"/> やさしいが怖い父親	C+ C+ C+ C+ C+
22. 子どもは私を_____	<input type="radio"/> 頼りにしている・必要としている <input type="radio"/> 大好き <input type="radio"/> 父親として頼ってほしい <input type="radio"/> 遊び相手 <input type="radio"/> どのようにみているのか・どう思っているのか・好きなのだろうか	B2+ B1+ C+ B3+ D
23. もしも子どもが_____	<input type="radio"/> いなければ (全く別の人生、つまらない人生) <input type="radio"/> いなくなったら (ひどいショック、心に空洞、人生真暗、etc) <input type="radio"/> 病気・けが・事故が心配 <input type="radio"/> 犠牲を払っても守る・相談にのる	C+ B1+ A+ C+
26. 子どもがいうことをきかない と_____	<input type="radio"/> 怒る・叱る <input type="radio"/> 意味・原因を考える・話し合う <input type="radio"/> いいきかす・説明する・説き伏せる・厳しくいつける <input type="radio"/> イライラして手が出る・腹立たしく叩く・なぐってもいうことをきかす・感情的に当る <input type="radio"/> 困る	C± C+ C± B1- A-



29. 子どもの気持ち_____	<input type="radio"/> 尊重したい <input type="radio"/> 気持ちをよく考えて行動・接したい <input type="radio"/> 大切にしよう聞いて、理解したい・汲みとりたい <input type="radio"/> 複雑 <input type="radio"/> 分かるようで分からない・時に想像し難い・分からなくなる時がよくある	C+ B2+ B2+ C± D
15. 妻と子どもは_____	<input type="radio"/> 大切な宝物・財産・オアシス <input type="radio"/> 密接・愛情の強い絆 <input type="radio"/> 仲がよい・うまくいっている <input type="radio"/> 仲がよくて羨ましい	C+ C+ B1+ B1±

## Ⅱ 家族・夫婦関係の領域

31. 私にとって家族は_____	<input type="radio"/> 大切・大事な存在。宝物 <input type="radio"/> 生き甲斐・かけがえのないもの <input type="radio"/> 守るもの <input type="radio"/> 生きるのになくてはならないもの・支え <input type="radio"/> あったかく大きいもの・やすらぎの場	C+ C+ C+ C+ A+
4. 妻と私は_____	<input type="radio"/> 補完関係・親友・人生のパートナー・共に生きる <input type="radio"/> 変わらぬ関係・よい関係 <input type="radio"/> 楽しく・助け合い・仲良く・幸せ <input type="radio"/> 共通の価値観・共通の趣味で <input type="radio"/> よく分からない・夫婦は他人 <input type="radio"/> 子育ての不一致 <input type="radio"/> 子ども中心すぎる	B3+ B3+ B1+ C+ D B2- B2±
21. 妻が病気になると_____	<input type="radio"/> 心配・困る・大変・不安 <input type="radio"/> 家族全員暗く・笑い半減・バランス崩れる <input type="radio"/> かばう・世話する・看病・家事をする <input type="radio"/> 普段の大変さを知る・母親の存在を改めて知る	A± A± C+ C+
30. 性生活_____	<input type="radio"/> 相手を思いやる・気持ちを考える <input type="radio"/> 大切なコミュニケーション・愛情表現の1つ・お互いの理解・慈しみ合う気持ちの表れ <input type="radio"/> 大切・楽しい・大事・重要 <input type="radio"/> 子どもが生まれてから思うようにいかない <input type="radio"/> 少ない・余りない <input type="radio"/> いまいち・不満だらけ	B1+ B3+ C+ A- B2± D
32. 妻とふたりでいると_____	<input type="radio"/> 安らぐ・楽しい・落ちつく・ホッとする・安心・リラックス・幸せ・和む <input type="radio"/> いつも子どものことを話す・考える <input type="radio"/> 昔を思いだす・前は幸せだった <input type="radio"/> ぎくしゃくしている・余り話さない <input type="radio"/> ふたりきりがなくなった(主に子どもが生まれてから)	A+ B3+ A± D B2±
17. 私の居場所は_____	<input type="radio"/> 家庭・家族・家 <input type="radio"/> 仕事(職)場と家庭 <input type="radio"/> 書斎・自分のイス・自室・たたみ一畳 <input type="radio"/> ない <input type="radio"/> どんなものか分からない	C+ C+ C± C- D
20. 家にいると_____	<input type="radio"/> やすらぐ・ホッとする・落ちつく・安心・くつろぐ・のんびり・和む・幸せ・充実・楽しい・心身休まる <input type="radio"/> 妻と子と一緒に幸せ・コミュニケーションが沢山とれる・とりたい・理解深めたい	A+ B1+ A-

	○のんびりできない ○いらいらしやすい	A-
--	------------------------	----

Ⅲ 父親自身の領域

1. 子どもの頃私は_____	○活発・元気・やんちゃ・いたずらっ子 ○いい子・素直な子・静かな子・従順 ○引っ込み思案・おとなしい・泣き虫・弱虫・人みしり ○両親不仲・よくない思い出	C+ C± C- A-
3. 将来、私は_____	○家族を守る・幸せに ○子どもの手本に・尊敬される父親に ○家族でゆっくり・楽しく・～～したい・子ども・妻と～したい ○（自分が） ゆうゆうと・ゆっくり安定して・老後・隠居生活を ○（自分が） 人生楽しく・夢の実現・～～したい ○分からない・どうなることか	C+ C+ B1+ C+ A+ D
10. 私はひとりであると_____	○夢を描く・想像する・いろいろ考える・空想する・物思いに耽る ○愉快・楽しみ・幸せ・自由・ゆっくり・落ちつく・のんびり・ホッと する ○孤独・淋しい・気分が落ちる ○じっとしてられない・何していいか分からない ○寝てしまう	C± A+  A- D E±
9. 私が感情的になるのは_____	○プライドを傷つけられたとき・筋が通らない・理不尽・納得いかない ○自分の欠点等指摘される・自分が責められたとき ○思い通りにいかないとき ○自分がこだわりをもちすぎて・自分が不甲斐ないから・意見等を表 現できないとき ○具合が悪い・疲れたとき	C+ C± A- D E±
16. 私は男として_____	○家族を守る・支える・幸せに・大切に・頼りになる ○子どもの手本・尊敬される父親に ○責任感・自立 ○足りない点が多い・どうなんだろう・もうひとつしっかりしてない・ 魅力がない	C+ C+ C+ D
25. 困り果てたとき私は_____	○自分ひとりで考える・ひとりで解決する。 ○妻と相談する ○友人、周りの人に相談する ○母親、両親に相談する ○運命、神仏に任す・すがる ○開き直る・忘れる・目の前のことのみにしておき、ピンチをぬける・ 気をまぎらす・楽しいことを思い出す ○投げだす・あきらめる・黙りこむ・何もする気がなくなる・どうな ることかと思ってしまう	C± B2+ B2+ B2+ C± A± D
27. 死ぬときは_____	○家族に迷惑・家族に不安を与えないように ○家族に見守られて・自分が一番先に ○苦しまず・痛くなく・ぼっくり・あっさり・安らかに・寿命で・大往 生で ○幸せだったし・満足して・後悔しない人生で・やり残しがないように ○怖い・淋しい・幸せな人生と思えるかどうか	A± C± C+  C+ A±
19. 思いどおりにいかないと_____	○いらいらする・落ちつかない・腹が立つ・人に当たる・八つ当たり・ 身近なものを壊したくなる ○ゆううつに・落ち込む ○頑張る・努力・工夫・トライ・成し遂げる・思う通りに何が何でも する	A-  A- A+

	<input type="radio"/> 原因追求・別の方法を <input type="radio"/> あきらめる <input type="radio"/> あたり前と思う・仕様がなと思う <input type="radio"/> 反省する・自分の責任と思って	C+ C± C± C±
28. 暴力_____	<input type="radio"/> 反対 <input type="radio"/> してはいけない・あってはならない・排除する・完全否定 <input type="radio"/> 言葉の暴力もいけない <input type="radio"/> 嫌い・悲しいこと <input type="radio"/> よくないと思っても、暴力ふるって後悔・未熟さから手が出てしまう <input type="radio"/> TPO で必要・時に必要な場面も・必要な時も	C+ C+ C+ A+ B1- C±

#### Ⅳ 父親自身の親子関係の領域

8. 母と私は_____	<input type="radio"/> 似ている(価値観、考え方、性質) <input type="radio"/> 仲よし・うまくいっている・よい関係 <input type="radio"/> よき理解者 <input type="radio"/> 一心同体 <input type="radio"/> 今、大人になってから信頼関係 <input type="radio"/> 子離れできていない <input type="radio"/> 関わりがなかった・思い出がない・距離がある <input type="radio"/> よい関係にない・否定される	B1± B1+ B3+ B3± B3± B2- B2- B2-
24. 父と私は_____	<input type="radio"/> 仲が良い・うまくいっている・よき理解者同志・心が通い合って・ <input type="radio"/> 似ている・だんだん似てくる <input type="radio"/> 接触の機会がなかった・一緒に思い出がない・遊ばなかった・～し なかった(父のことをよく分からない) <input type="radio"/> 話し合わなかった・余り話さない <input type="radio"/> ライバル・父を越えられず腹立たしい <input type="radio"/> 似ているといわれ、そう思いたくない・似ている自分が嫌 <input type="radio"/> 無関係・愛情を感じない関係(むずかしい関係)	B1+ B2± B2- B2- B1± B2- D

#### Ⅴ 社会(友人・仕事)の領域

7. 友人_____	<input type="radio"/> 財産・大きい・かけがえのない <input type="radio"/> 家族の次に重要・大切 <input type="radio"/> 信じ合える・心通じる <input type="radio"/> 子どもも友人をつくり、大切に・子どもの成長に <input type="radio"/> いる <input type="radio"/> 少ない <input type="radio"/> 希薄になりがち・家族との方が楽しみ <input type="radio"/> 親友いない・本来の友人か・気をつかう	C+ C+ B3+ C+ C± C± B2± D
13. 仕事_____	<input type="radio"/> 生き甲斐・やりがいのあるもの <input type="radio"/> なくてはならないもの・大切 <input type="radio"/> 家族・子どものため <input type="radio"/> 仕事より家族が大切・家庭優先・家族はより重要 <input type="radio"/> 仕事も家族も大切 <input type="radio"/> 仕事と家庭の両立難しい <input type="radio"/> 生活のための道具	C+ C+ C± C+ C+ A± C±

表2 反応分類・評定比率

分類		I 育児を含む 父子関係の領域		II 家族・夫婦関係 の領域		III 父親自身 の領域		IV 父親自身の 親子関係の領域		V 社会(友人・ 仕事)の領域		
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
情緒性	A+	4	6.8	3	8.3	4	8.2	0	0.0	0	0.0	
	A±	3	5.1	3	8.3	3	6.1	0	0.0	1	6.7	
	A-	3	5.1	3	8.3	5	10.2	0	0.0	0	0.0	
	小計	10	17.0	9	24.9	12	24.5	0	0.0	1	6.7	
関係性	情緒的な関係	B1+	4	6.8	3	8.3	1	2.0	2	13.3	0	0.0
		B1±	1	1.7	0	0.0	0	0.0	1	6.7	0	0.0
		B1-	1	1.7	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0
		小計	6	10.2	3	8.3	2	4.0	3	20.0	0	0.0
	叙述的な関係	B2+	8	13.6	0	0.0	3	6.1	0	0.0	0	0.0
		B2±	0	0.0	3	8.3	0	0.0	2	13.3	1	6.7
		B2-	1	1.7	1	2.8	0	0.0	6	40.0	0	0.0
		小計	9	15.3	4	11.1	3	6.1	8	53.3	1	6.7
	相互的な関係	B3+	5	8.5	4	11.1	0	0.0	1	6.7	1	6.7
		B3±	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	13.3	0	0.0
		B3-	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		小計	5	8.5	4	11.1	0	0.0	3	20.0	1	6.7
	合計		20	34.0	11	30.5	5	10.1	14	93.3	2	13.4
	叙述、考え方	C	23	39.0	10	27.8	14	28.6	0	0.0	7	46.7
		C±	4	6.8	1	2.8	10	20.4	0	0.0	4	26.7
		C-	0	0.0	1	2.8	1	2.0	0	0.0	0	0.0
小計		27	45.8	12	33.4	25	51.0	0	0.0	11	73.4	
困惑、当惑	D	2	3.4	4	11.1	5	10.2	1	6.7	1	6.7	
その他	E±	0	0.0	0	0.0	2	4.1	0	0.0	0	0.0	
総計		59	100	79	100	96	100	43	100	31	100	

各項目について、検討する余裕はないが、研究の視点である「関係性」を中心に見ていきたい。

関係性としての反応を見ていくと、①情緒的關係性：+・±・- ②叙述的關係性：+・±・- ③相互的關係性：+・±・-に分けられる。これらの「関係性」が、表2の主な反応分類評定比率に示すように、特に本研究で重要な領域Iの「育児を含む父子関係」、領域II「家族・夫婦関係」に30%強の反応が出ている。

また、その関係のあり方を+・±・-と評定していくことと、どの関係性が父親に有意かどうかをみることによって、父親の本態に迫ることができると考える。

次に、「情緒性」と「叙述・考え方」の反応が見いだされた。これらも関係性と同様な評定をすることができる。また、「父親自身の親子関係」を除いて、「叙述・考え方」の比率が高く、母親の反応と比較しないとはっきりしないが、父親・男性のひとつの特徴とも考え

られる。

そこで、F・SCTの反応は、下位分類を持つ「関係性」、および「情緒性」、「叙述・考え方」の3つが主な反応であり、さらに「困惑・当惑」「その他」に分類された。そしてこれらの反応内容を吟味検討していくことにより本父親・男性研究を進めていくことがある程度可能であると考えられる。なお、このパイロットスタディは、一つの幼稚園のデータであり、地域性や母親が働いている家庭など幅広く施行しなくてはならない。

その上で、各項目の主な反応を抽出し、反応カテゴリーを作成する必要がある。来年度、まず行わなければならない研究課題である。この反応カテゴリーができれば、各領域間の関連、即ちパターンを抽出でき、父親の役割をいくつかのタイプとして捉えられる可能性があり、その役割のどのようなタイプが育児や家庭機能に有益、あるいは不利益となるかを検討しようとする。

次に、反応の中に父親の育児不安を想定されるものもある。また、ある領域が鍵となり、その有り様が父子関係、父親の役割を形作っているといったことを導き出せる可能性もある。たとえば、「父親自身・男性」の領域の有り様が鍵となっているなどである。

### Ⅲ. 考察

父親の基本的な役割を見いだすために、従来のアンケート方式による調査研究から、なるべく生きた声を聞き、読みとるべく臨床心理検査法のひとつの技法である文章完成法(F・SCT)を研究方法とした。本年度は、このF・SCTの作成を課題として研究を進めた。

まず、チームメンバーにより1449項目の「書きかけの文章」が作成され、最終的に32項目が研究目的に添って選定された。

次に、本研究の視点である、「関係性」を中心に、5つの領域からF・SCTを構成した。そして、パイロットスタディを行い、主な反応を読みとり、その評定を試みた。その結果、ある程度本研究の目的を果たしうるとの結果を得た。

しかし、このパイロットスタディは都区内の一幼稚園で得られたものであり、項目に対する反応については、今後地域性を含め幅広くデータを取り、反応カテゴリーを作成する必要がある。この反応カテゴリーの

作成意図は、質的なものを生かしながら数量化するためであり、これによって各領域間の関連、すなわちいくつかの父親パターンを導きだすことにある。しかし、一方、書き記された反応そのものを大きく損なわないようにしなくてはならず、今後の課題である。

次に、母親用文章完成法(M・SCT)について、その反応を同じ手続きを用い整理し、F・SCTとの比較検討を行わなくてはならない。これにより、父親パターンと母親パターンの異同、すなわち父親、母親それぞれ独自の役割と共通した役割を見いだしうるものと考え、そのための方略も今後の課題である。

### Ⅳ. 結語

父親の基本的な役割を明らかにするための研究方法として、臨床心理検査法のひとつである「文章完成法」を採用し、その作成を試みた。

そして最終的に32項目の「書きかけの文章」からなる父親用文章完成法(F・SCT)が作成され、その反応をみるためのパイロットスタディを行った。

その結果、本研究の主要な視点である「関係性」に関わる反応がよく出ており、F・SCTが父親研究に有効であると考えられ、また、今後の研究課題をも得ることができた。

### 文献

- 1) 育児における父親の役割に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」(平山宗宏主任研究者)平成元年、2年、3年度研究報告書
- 2) 育児における父親の役割と保健指導に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」(日暮眞主任研究者)平成4年、5年、6年度研究報告書
- 3) 川井 尚：育児における父親の役割、小児保健研究、1992；51(6)：671-680